

2018年8月18日

2019年度

大学院経営管理研究科 経営管理専攻

修士課程 入学試験

(経営分析プログラム)

【小論文試験問題】

以下の文章と図は、ケネス・シーヴ、デイヴィッド・スタサヴェージ著『金持ち課税』から抜粋したものである（抜粋に際して、一部の小見出しを省略するとともに、文章の一部を改変している）。

この文章を読んで、以下の問1から問4に答えなさい。なお、解答にあたっては、全て日本語で書くこと。

- 問1 文章中の空欄 ～ に適切な国名を入れなさい。なお、、、 は順不同とする。
- 問2 下線部 (A) に関して、著者は、図3-3に基づいて、最高税率が所得税制度全体の累進性の尺度として適切であるとの結論を導いている。この結論が図3-3からどのように導かれるかを、(1) 所得と法定税率の関係、(2) 最高限界税率と低所得者の限界税率との差、の2つの観点から、300字以内の文章で説明しなさい。
- 問3 下線部 (B) に関して、著者は、図3-4に基づいて、ここでの分析の目的に法定最高税率を用いることの適切性を主張している。「現代の税法が多次的であること」から生じる問題を説明した上で、この主張が図3-4からどのように可能になるのかを400字以内の文章で説明しなさい。
- 問4 下線部 (C) に関して、「この種の多国間比較」には、ここでの仮説を検証する方法としてどのような問題点があると考えられるか、および説得力の強い証拠を得るためにはどのようなデータを用いた検証を行うことが望ましいかについて、500字以内の文章で説明しなさい。なお、そのデータが実際に入手可能か否かまでは考慮しなくてよい。

【文章】

この部分の文章は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分の文章は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承ください。

この部分の文章は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承ください。


この部分の文章は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分の文章は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承ください。

出典：ケネス・シーヴ、デイヴィッド・スタサヴェージ著『金持ち課税』みすず書房、2018年、pp.58-71.

【図】

この部分の図表（図3-1）は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承ください。



この部分の図表（図3-2）は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承ください。

この部分の図表（図3－3）は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分の図表（図3-4）は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承願います。

出典：ケネス・シーヴ、デイヴィッド・スタサヴェージ著『金持ち課税』

みすず書房、2018年、pp.61, 62, 64, 66.